観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月３１日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）信州とうみ観光協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 長野県東御市	
所在地	長野県東御市田中 279	
設立時期	平成 29 年 9 月 1 日	
事業年度	令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの１年間	
職員数	６人【常勤５人（正職員２人・出向等３人）、非常勤１人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 北沢　達 （出身組織名） 湯の丸観光開発（株） 東御市産業経済部長	（一社）信州とうみ観光協会の会長として、東御市をはじめ周辺地域の様々なパイプ役となっており、在任期間中、様々な取組で成果を挙げている。 　また、湯の丸観光開発（株）の常務として、東御市の観光産業を牽引する湯の丸高原エリアでホテルやスキー場の経営の一角を担っている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 早川　一夫「専従」 （出身組織名） 株式会社　電弘	県内の大手広告代理店のシンクタンクで広報・プロモーションの企画開発に従事。マーケティングに関して豊富な知見と能力を持つ。また長野県など地方自治体における各種イベントのコーディネイトを多数手がけている。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 田母神　禎子「専従」 （出身組織名） 東御市観光協会事務局	（一社）信州とうみ観光協会の事務局として、市内外の観光業者や農商工事業者、地域団体との連絡調整に携わっており、経理を中心に観光案内等のコンシェルジュ窓口業務を担っている。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材）	（氏名） 白倉　公隆 （出身組織名） 東御市役所　出向	地域と連携した観光資源の発掘と着地型旅行商品づくりなど企画力に優れているとともに、ICT に精通しており、Web メディアを活用したプロモーションにスキル・ノウハウを有している。

様式１

※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること		
各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）	（氏名） 西澤　たかせ （出身組織名） 東御市役所　出向	地域と連携した観光資源の発掘と着地型旅行商品づくりなど企画力に優れているとともに、ICT に精通しており、Web メディアを活用したプロモーションにスキル・ノウハウを有している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	長野県東御市 商工観光課（マーケティング、観光資源維持管理、地域交通） 企画振興課（シティプロモーション） 文化・スポーツ振興課（スポーツツーリズム） 地域づくり・移住定住支援室（地域資源振興） 農林課（地域産品振興） 建設課（社会資本整備） 教育委員会（文化財保護、文化・芸術振興、通訳ボランティア育成） 上田地域広域連合（広域連携） 小諸市商工観光課、上田市観光課、群馬県嬬恋村	
連携する事業者名及び役割	東御市商工会（地域デマンド交通） （一社）とうみ湯の丸高原スポーツコミッション、（公財）身体教育医学研究所（以上、ウェルネスツーリズム） 東御市飲食店組合、東御市工業振興会、JA 信州うえだ農業協同組合、JA 佐久浅間農業協同組合、（株）信州東御市振興公社、湯の丸観光開発（株）、有限会社雷電くるみの里（以上、地域特産品開発協力） 東御ワインぶどう協議会、東御ワインクラブ、田中地区地域づくりの会、中心市街地活性化協議委員会、しげの里づくりの会、祢津地域づくりの会、和地域づくりの会、御牧ふれあいの郷づくり協議会、NPO 海野宿トラスト（以上、地域活性化促進） 八十二銀行田中支店（金融相談）、しなの鉄道株式会社、しげのマツバタクシー(有)、草軽観光株式会社、千曲バス株式会社、ＩＰＤロジスティクス㈱、交通システム運行委員会（以上、旅行商品開発、アクセス改善）	
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】① ・DMO の意思決定に関与する理事会の設置 DMO の理事には、宿泊事業者、東御市副市長、東御市商工会長、（株）信州東御市振興公社取締役、JA 信州うえだ東御支所長、八十二銀行田中支店長、東御ワインぶどう協議会長、地域の観光資源の関係者、11 名が参画し、地域一体となった観光地域づくりの戦略形成、定期的な見直しに取り組んでいます。 ・地域観光事業者や商工業者で構成される会員向け総会の実施 宿泊事業者、飲食事業者、交通事業者、建築業、ワイナリー事業者、商工業事業者、農産物生産者等、134 が会員となっており、毎年度事業終了後、行政も交えて、事業の経過説明及び来年度の事業計画、観光地域づくりの戦略について報告、意見交換を行う定時総会を実施しています。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	・タウンミーティングの実施 地域住民や観光事業者に向け、市の観光ビジョンや観光地域づくりの方向性を共有し、住民参加の観光のあり方についての啓発と意見集約を兼ねたタウンミーティングを開催。	

様式１

<table>
<tr><td></td><td>・観光協会の活動やDMOとしての機能体制を都度機会ある毎に紹介</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>・平成30年度～（継続）　情報発信一元化事業
ホームページやFacebookを活用した、主催イベントや市内のイベント、観光情報の一元的な発信を実施。（令和４年度：767,000、5年度：672,000、6年度：698,000）
・平成30年～（継続）　メール配信事業　メーリングリスト（とうみファン倶楽部）を通して、市内の観光情報を発信。（令和元年度390人、４年度：1,113人、5年度：1,171人、6年度：1,071人）
・令和元年度～令和2年度　YouTube事業
YouTubeを活用し、動画による観光情報、地域情報の発信を実施。（元年度：40本アップ、最高視聴回数14,684、2年度：24本アップ、最高視聴回数29,028、６年度：チャンネル登録 639人、72 本動画、203,331 回視聴）
4年度：俳優丸山智己を使ったシティープロモーションパンフレットを首都圏にて配布、FMにて15分番組制作6回放送
令和5年度はしなの鉄道沿線インバウンド連絡会で台湾田中マラソンに出向き連携プロモーションと番組放映を実施（観光庁補助金事業）6年度も継続実施。地域のイベントや活動などきめ細かい内容もSNS等（Facebook、Instagram、X、cool Japan video）で発信
6年度グリーンツーリズムと宿泊プラン造成しOTAを通じて販売(観光庁新発見事業)</td></tr>
<tr><td>受入環境の整備</td><td>・平成30年度、令和元年度　観光二次交通検証事業
ワインツーリズムの交通整備のため、ワイナリーを巡る観光二次交通の社会実験を実施。（平成30年度乗車数555人、令和元年度：288人）
・令和元年度～（継続）ワインタクシー実施事業　ワイナリーを巡るタクシーの商品化、運営。（利用者数　元年度：11件32人、４年度：41件101人、5年度27件92人、令和6年度25件85人）
・元年度　インバウンドパンフレット作成事業
しなの鉄道沿線インバウンド連絡会と連携して英語、中国語のパンレットを協働作成。
・インバウンド向け情報発信事業</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

		訪日外国人を対象とするボランティアグループ「おもてなしネットワーク」と連携し、インバウンド向けHP、パンフレットの制作。４年度：台湾弁当節にて連携協力） ・平成30年度～（継続）　観光ガイド受入れ事業 北國街道海野宿での観光ガイドの受け入れ、および湯の丸高原での自然観察ガイド、ネイチャーガイダンス（講座）、クラフトづくりなどの実施。（４年度：7,319人、5年度：6,210人、6年度11,069人） ・3年度　eバイク活用実証実験 　eバイク（２台）による市街地及び湯の丸高原、近隣市町村を含む観光利用の実証実験の実施。（利用者：51名） ・４年度：とうみシェアサイクルの導入 （利用台数rental/share　令和4年度391/106台、令和5年度：276/201台、令和6年度：　284/234台） ・5年度：セルフガイドツアー動画撮影、看板設置、HP 　企業研修アウトドアプログラム造成事業、グランフォンド湯の丸大会のサイクルイベントを主催実施、台湾田中マラソンと繋ぐ新たなマラソン造成事業（観光庁） ・6年度は地域連携で実施、また湯の丸高原池の平湿原多言語化整備（パンフレット、英訳映像：環境省）を実施
	観光資源の磨き上げ	観光資源の磨き上げ ・平成30年度（継続）グリーンツーリズム事業 東御市型グリーンツーリズムとして、農業体験や自然観察、クラフトづくりなど、東御市ならではの体験を担う事業者を発掘、商品化し、販売。（2・3年度：コロナ禍で中止、４年度：7件、5年度12件、6年度22件） ・令和元年度～　高地トレーニング体験セミナー実施 GMOアスリーツパーク湯の丸（高地トレーニング施設）を活用したツアー商品の造成。（令和元年度：31人、2年度：34名申込、コロナ禍で中止、3年度：コロナ禍中止、４年度：1回　） 令和4年度：観光庁看板商品企画造成事業、信州黄金シャモレシピ開発、タクシードライバー研修事業 令和5年度：グリーンツーリズムの受け入れ態勢の整備 令和6年度：湯の丸高原の夜のアクティビティと宿泊、グリーンツーリズムと宿泊プラン造成（観光庁新発見事業）、観光インターンシップ事業でウェルネスツーリズムを実施

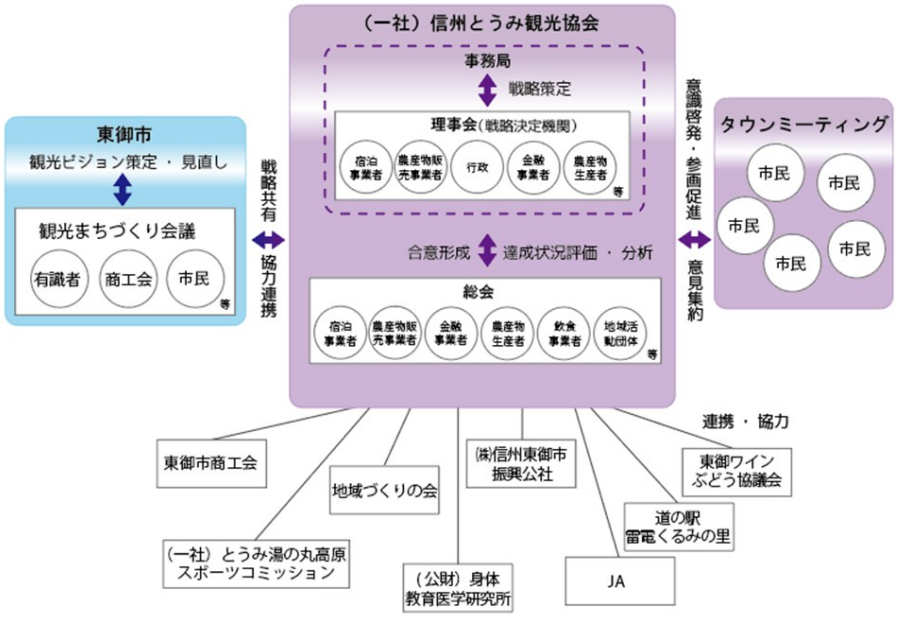
【定量的な評価】

・情報発信、プロモーション事業

　主な情報発信ツールである観光協会HPは、FacebookやInstagram・Xといったsnsと相互に連携させ、ダイレクトに情報を伝えるメーリングリスト（とうみファン倶楽部）やsnsでの発信とも相互にリンクさせているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、アクセス数は目標値を下回っている。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で市外、県外でのプロモーションはほぼ中止となった。今後、デジタルを活用した観光客の行動、ニーズの分析と合わせて情報発信方法の検討している。

・受け入れ環境の整備

DMO法人として行政と連携する中で、主にソフト面での受け入れ環境の整備を担っている。ワイナリーへの訪問をはじめとした市内観光のためのアクセス整

	備として、ニーズの把握や来訪者の分析のための社会実験を実施し、それにより市内のワイナリーを数か所巡る、とうみワインタクシーを整備し現在も運行中。また市運行のデマンドバス「とうみレッツ号」を平日ではあるが 2 次交通手段として利活用の促進を図っている。 　また、体験型観光として、北國街道海野宿及び湯の丸高原において、それぞれ観光ガイドを実施している。海野宿ガイドについては、令和 2 年度から NPO 法人海野宿トラストに受け入れ窓口を移管し（サポートは継続）、地域の自主的な運営へと推移。令和 2、3 年度はいずれも利用者数が減少しているが、ガイドレシピを変更し、新型コロナウイルス対策を行ったうえで、安心・安全にガイドを行うよう取り組んでいる。（5 年度：50 組 823 人、6 年度：55 組 1,235 人） ・観光資源の磨き上げ 東御市型グリーンツーリズムは、ワイン用ぶどうやブランド米・野菜等の栽培、収穫体験の他、野づるかご作り、自然観察等の 36 種の体験を商品化し、令和 30 年度は 30 件、令和元年度は 83 件。令和 2、3 年コロナ禍中止。（4 年年度：7 人、5 年度：61 人、6 年度：81 人） また、令和元年度に続き、高地トレーニング施設を活用したツアーを造成したが、コロナ禍中止となった。4 年度は上記の通り、5 年度地元新聞社と共同で東御市のフィールドを使った湯の丸高原とワインを絡めたアウトドア企業研修プログラムを造成。6 年度は湯の丸高原の夜のアクティビティと宿泊、グリーンツーリズムと宿泊プラン造成（観光庁新発見事業）参加 16 名、商談会 8 社
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** （一社）信州とうみ観光協会が中核となり、行政、宿泊事業者、飲食事業者、交通事業者、農産物生産者など、地域の多様な関係者が参画し、官民が密接に連携して運営を実施している。行政が主導する、有識者や市民を委員とした観光まちづくり会議において市の観光ビジョンを策定し、それらを元に、行政と観光協会が戦略の共有。観光協会は、地域観光事業者や行政などによる理事会を戦略決定機関とし、総会において戦略や各種データの分析結果を報告、同意を得ている。さらに、地域住民を対象としたタウンミーティングを実施、行政からは観光ビジョン等、市の戦略の説明、観光協会からは DMO 法人としての戦略及び地域観光づくりについて、周知を図っている。 **【実施体制図】** 

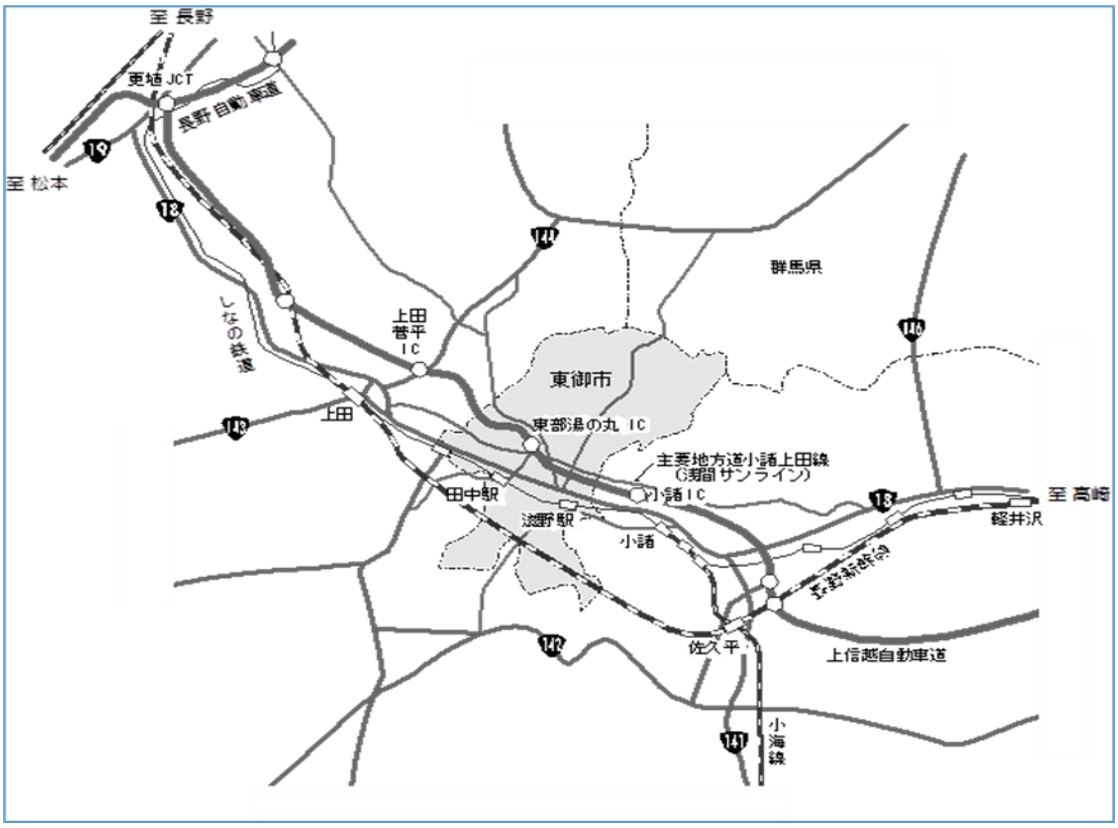
様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

様式１

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

東御市は長野県の東部に位置し、県都長野市までは約 45㎞の距離にあり、首都東京より約 150㎞の圏域にある。北は群馬県嬬恋村に、西は上田市に、南は立科町、佐久市に、東は小諸市に接し、市域は東西 14.7㎞、南北 16.5㎞、総面積は 112.3ｋ㎡であり、2004 年 4 月に旧東部町と旧北御牧村が合併して誕生した市である。



【区域設定の考え方】

※安定的かつ継続的に区域としての一体性を確保する観点から、地域における自然、歴史、文化等の関係性を踏まえて記入すること。

観光事業者をはじめ各種団体、農商工事業者らが参画した「観光まちづくり会議」において、平成 27 年度(2015)から向こう 10 年間における観光地域づくりの方向性や観光施策の計画的かつ戦略的な推進に関する新たなビジョンを策定。このビジョンにおいて、本市の観光の現状と課題を明らかにした中で、標高差 1,500ｍの変化に富んだ地勢の強みや豊かな地域資源の魅力を活かした東御市ならではの「地域ストーリー」によって体験・滞在プログラムを創出していくことの方向性が確認されたため、東御市内を区域に設定した。

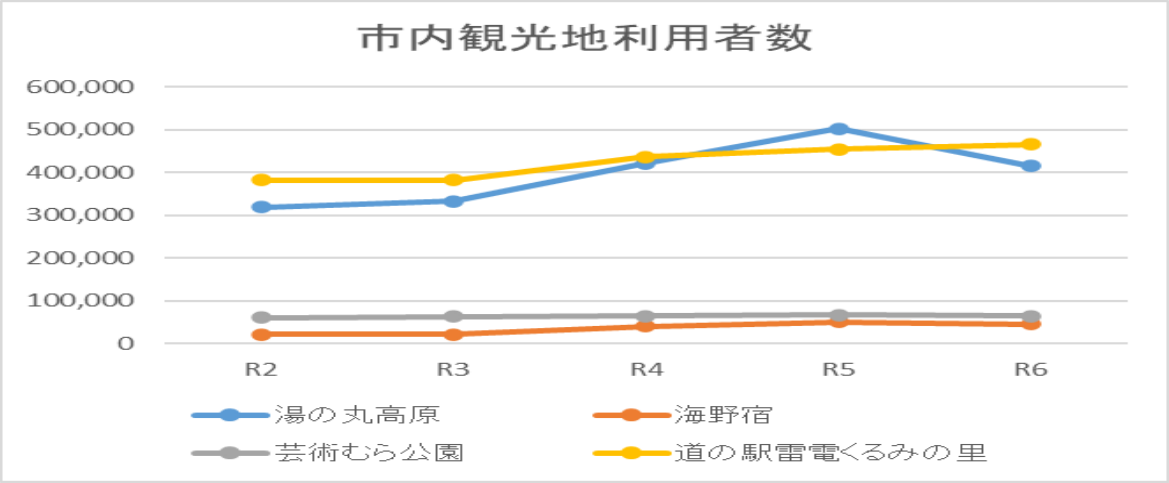
【観光客の実態等】

※設定区域における観光客入込客数、延べ宿泊者数、消費額等を踏まえて記入すること。

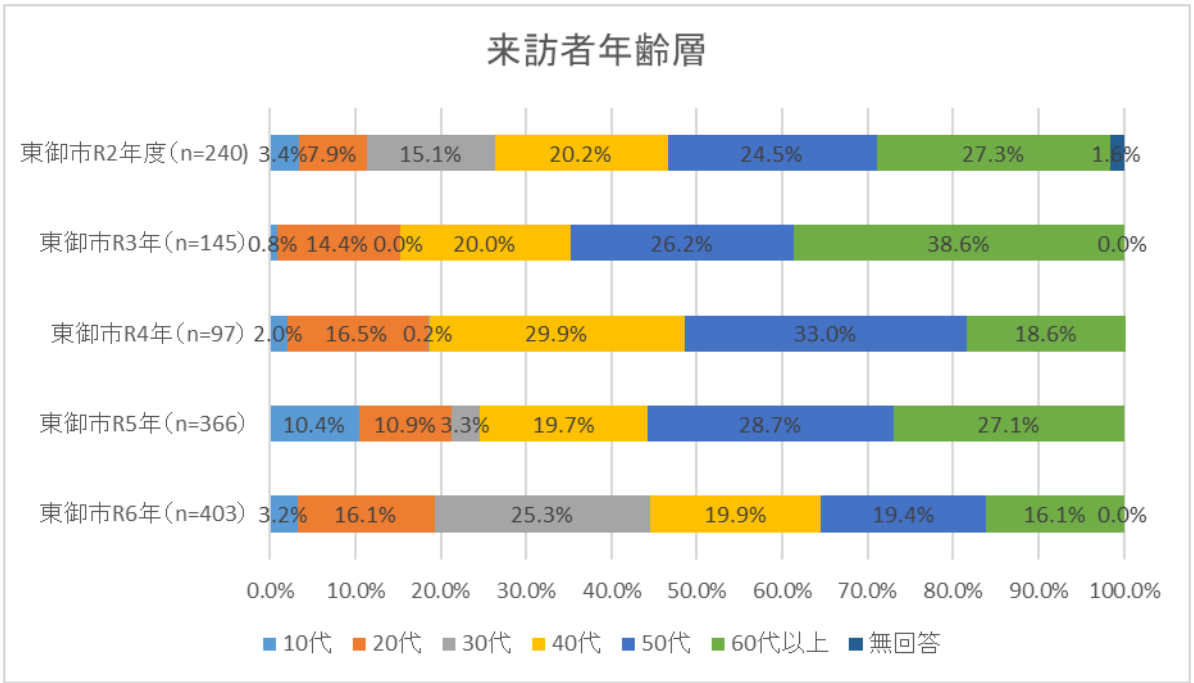
東御市には、市内最高峰の標高 1,750ｍ～2,000ｍに位置する上信越高原国立公園内の「湯の丸高原」、標高 500ｍ付近を東西に流れる千曲川沿いに旧北国街道の面影を残す“重要伝統的建造物群保存地区”指定の「海野宿」、標高 700ｍのパノラマ台地に整備された「芸術むら公園」など、標高差 1,500ｍの域内に多彩で魅力的な観光資源を有しているほか、巨峰、しなのくるみといった特産物や

様式１

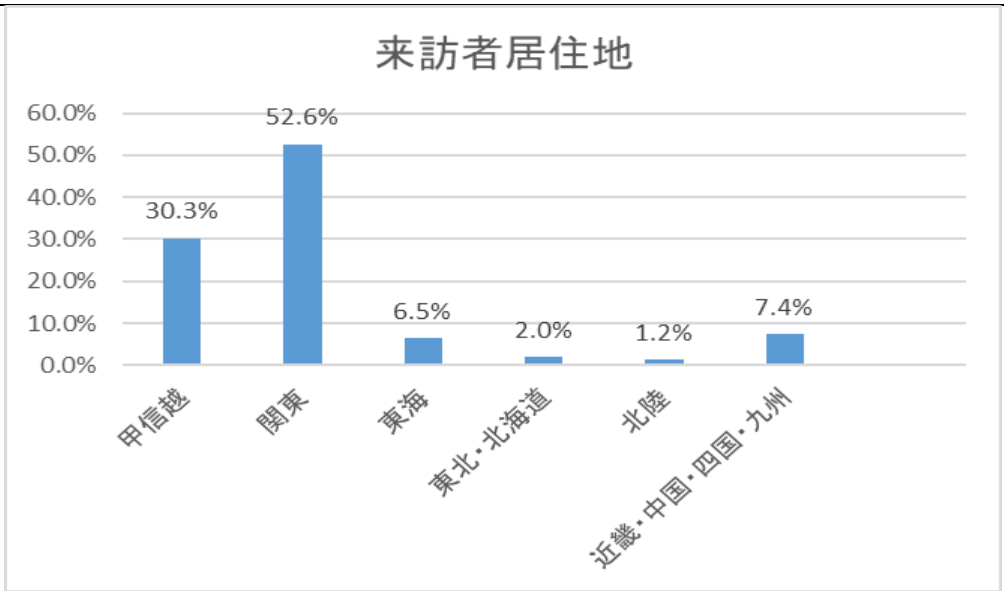
本市特有のテロワールを活かして急速に拡大しているワイン産業など、東御市ならではの豊かな農産物資源＝「食」の強みも相まって、年間 130 万人程の観光客が訪れている。
令和 2 年 3 月以降、新型コロナウイルスの影響により市内観光地の来訪者数は約 40%減少している。特に令和元年 10 月の台風 19 号によりアクセス橋が落橋した海野宿については、平成 30 年と比較して約 90%の落ち込みが見られ、横ばいとなっている。
令和 4 年度は行動制限も無く利用数は 96 万人と増加傾向であるが、来訪者満足度調査収集サンプル数が極端に少なく、殆どリピーターとなるため参考値としている
令和 5 年度の利用数は 107 万人と増加傾向がみられるが湯の丸高原以外は微増である。
令和 6 年度の利用数は土日の天候不順により 99 万人と減少。



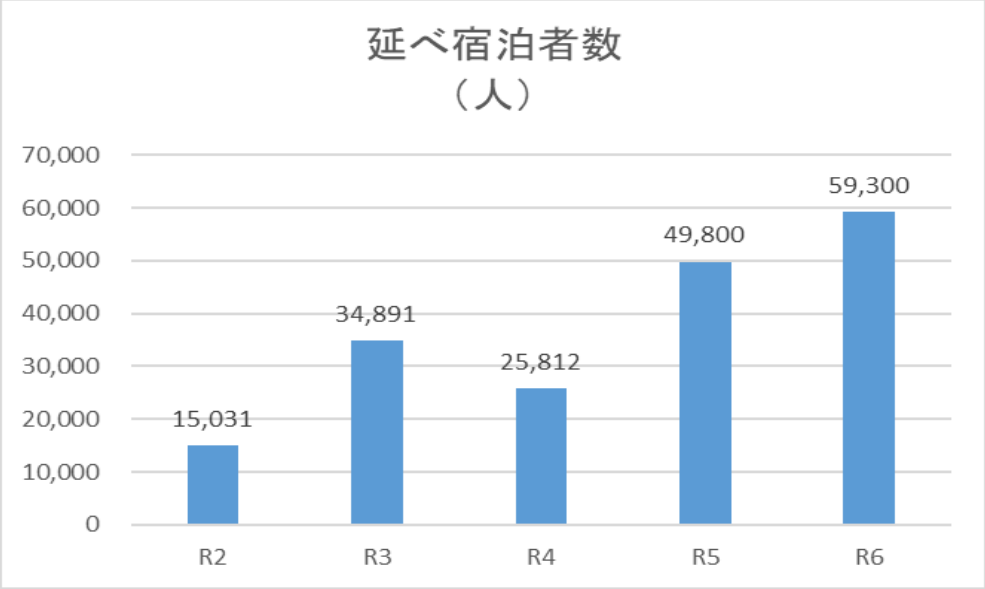
来訪者の主な特徴としては、関東居住の 50 代以上が半数以上を占めている。次いで甲信越地方となっているが、長野県内からの来訪者が主である。新型コロナウイルスの影響により、近隣での観光が多く、首都圏から近い当市の特徴が表れていると考えられる。令和６年度は刀剣展を実施事により若い方々の来訪が多かった。



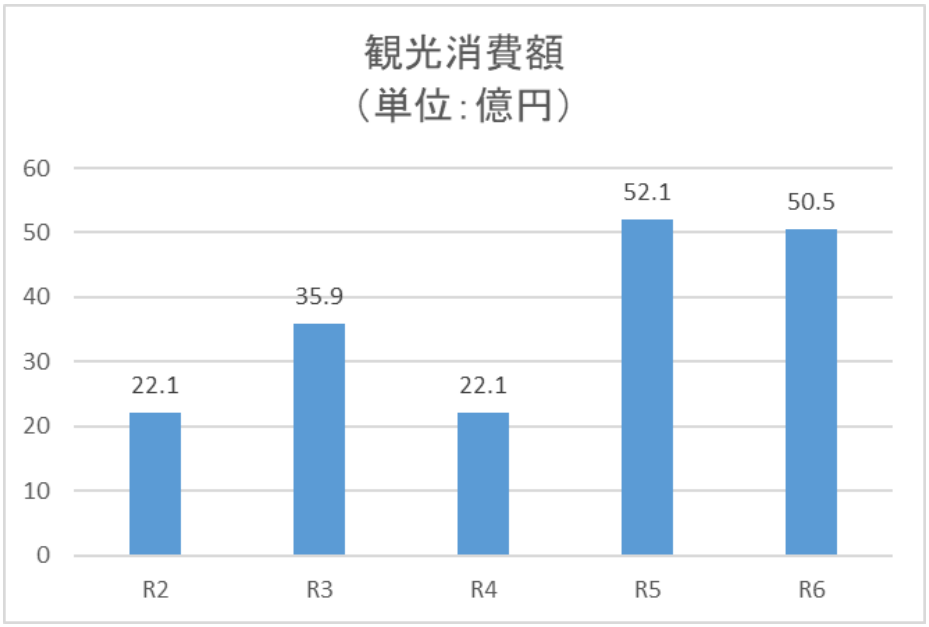
令和 6 年は刀剣展開催により全国各地からの来訪者があったことが伺える。



令和 6 年の延べ宿泊者数は、修学団体のリピーター利用があり回復の兆しは見られるが、R1 年以前の水準までには戻っていない。



観光消費額については延べ宿泊者数と同様回復傾向にあるが、湯の丸高原エリアの天候不順により減少している。



【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

〔山岳エリア〕
標高 1,750m～2,000m
　湯の丸山、烏帽子岳などに代表される浅間山連峰の西端に位置し、池の平湿原、臼窪湿原、レンゲツツジの大群落、コマクサ園といった豊かな自然環境を持つエリア。夏場はトレッキングや自然観察、キャンプといったレクリエーションを目的に訪れる人が多く、冬場やスキー、スノーボード、スノーシューといったスノーアクティビティでの観光がメインとなっている。
　平成 30 年度に、高地トレーニング施設（陸上トラック、トレイルランコース、宿泊施設）が開設され、令和元年度には、日本で唯一の高地トレーニングプールがオープンした。トップアスリートが利用するそれらの施設を活用した、トレーニングツアーの実施やイベント、高地トレーニングの一般市民に対する効果検証等を（一社）とうみ湯の丸高原スポーツコミッションや（公財）身体医学教育研究所と連携して実施している。

〔高原エリア：ワイナリー、芸術・文化観光資源〕
標高 850m～700m
　ヴィラデスト ガーデンファーム アンド ワイナリーをはじめ、市内に 15 軒のワイナリーがあり、個性的なワインの産地として注目を集めています。ワイナリーは市内に点在しており、観光客が利用できる公共交通がないこともあり、当協会が窓口となり市内のワイナリーを巡るワインタクシーを運行している。また、ワイン用ブドウの栽培や収穫体験をグリーンツーリズムとして商品化し、東御市ならではの体験として販売している。9 月から５月に日程変更した、東御市内のみのワイナリーや飲食店が出店するイベント「東御ワインフェスタ」を開催し、市内外から多くのファンが訪れる（来場者数：約 2～3,000 人）。また、近隣住民には新たな産業であるワインに親しんでいただく機会ともなっており、ワイン産業に対する認知の向上にも役立っている。
日本最古の回し付き歌舞伎舞台や丸山挽霞記念館、芸術むら公園で開催される火のアートフェスティバル、天空の芸術祭といった歴史・文化観光資源については、保存・運営している地域団体や行政と主にプロモーションの面で協力している。

〔準高原エリア・歴史的・文化的資源〕

標高 500m
真田家の守護神「白鳥神社」、縁結び地蔵「媒（なかだち）地蔵尊」、木曽義仲挙兵の地「白鳥河原」を含む北國街道「海野宿」（重要伝統的建造物群保存地区指定）は、市内の三大観光地のひとつとなっている。現在も住居となっており、人の営みを感じることができる「時の止まった静けさの街」として、来訪者にはゆったりと宿場町の風情を楽しんでいただいている。地域の観光振興として、海野宿資料館や玩具展示館の指定管理者でもある NPO 法人海野宿トラストの運営する観光ガイド、ひな祭り、にぎわい夏祭りなどの企画アドバイス、出店協力、プロモーション協力を行っている。また宿場内のリノベーション施設「海野宿滞在型交流施設うんのわ」の指定管理を受け、観光案内所として運営している。
東御市の主要駅である田中駅近くの田中商店街の中心市街地活性化協議委員会が実施する田中まちなかハロウィンやお化け屋敷の際には、観光案内所も協力してくじ引き等のイベントを開催し、地域全体で活性化に取り組んでいる。

＜観光資源一覧＞

東御市を代表する観光資源		
山岳エリア	湯ノ丸山・烏帽子岳	上信越高原国立公園の浅間山系西方に広がる湯ノ丸山・烏帽子岳は、初心者も安心して登れるコースとして人気があり、多くの登山客が訪れている。
	湯ノ丸山・ツツジ平	「花高原」として親しまれる湯ノ丸山のレンゲツツジ大群落は、国の天然記念物に指定され、初夏には“ひと目 60 万株”ともいわれるレンゲツツジの鮮やかな朱色が山肌に広がる。
	篭ノ登山	神の力を授かる「加護の塔」から名付けられたといわれる篭ノ登山三山は、浅間山から富士山、八ヶ岳、北アルプスなど 360 度のパノラマが人気の登山ルートである。
	三方ヶ峰・見晴岳	池の平湿原の南に位置し、高山植物の宝庫を楽しむトレッキングルート。高山植物の女王“コマクサ”の大群落を楽しむことができる。
	池の平湿原	標高 2,000m、数十万年前の三方ヶ峰火山の火山原に広がる高層湿原です。木道が整備され、多様な高山植物や貴重な高山蝶なども見られる。
	見晴コマクサ園・三方コマクサ園	三方ヶ峰登山ルートの中途南斜面と見晴岳山頂の南斜面、いずれも標高 2,000m付近で「高山植物の女王」コマクサの群落を見ることができる。７月初旬には見ごろとなる。
高原エリア	五郎の滝・五郎八（いろは）の滝	百体観音 60 番観音付近の五郎の滝。その昔、五郎という名の年老いたムジナの伝説からその名がついた。その下の 55 番観音付近の滝をいつしか女滝に譬え、二つの滝を巡ると恋愛が成就するとして人気のスポットになっている。
	百体観音石造町石	新張から地蔵峠を越え、旧鹿沢温泉に行く主要地方道東御・嬬恋線沿いに一番から百番まで１町ごとに祀られている。
	シナノキ・弘法大師のさかさ杖	百体観音 50 番観音脇の巨木で、その昔、この地で弘法大師が休まれたとき、大地にさした杖がそのまま逆さに根付いたという伝説がある。
	日本最古の歌舞伎回り舞台	江戸時代の文化 14 年（1817 年）に建てられた現存する回り舞台としては日本最古のものといわれている。（東町、西宮）

	雷電生家	江戸時代、抜群の強さを誇り、勝率 9 割 6 分 2 厘とも伝わる天下無双の力士「雷電為右衛門」の生家。
	重要文化財　春原家住宅	江戸時代の始めごろ建てられた大きな農家で、保存解体修理によって復元されたものです。当地方における古い民家建築として注目されている。
	芸術むら公園	標高 700ｍの八重原台地の高台に位置する自然探勝公園であり、信州の山々をパノラマで見渡せる抜群のロケーションを有しています。結いの高欄道がシンボリックに回遊し、芸術文化空間の中でアウトドアライフを楽しむことができます。
	結いの高欄道	園内の明神池池畔に 360ｍにわたって作られたブロンズ高欄は、東御市出身の造形家・保科豊巳氏（東京藝術大学副学長）の環境芸術作品であり、1992 年度日本建築美術工芸協会賞を受賞しています。
	芸術むら公園・登り窯	八重原は奈良時代の須恵器文化ゆかりの地であり、文化財に指定される古い登り窯跡「西峯古窯」にちなんで作られた登り窯です。
	梅野記念絵画館ふれあい館	明治の天才画家青木繁ほか、近代美術史上、才ありながら忘却されつつある画家の研究・顕彰展示を中心に地域の作家の作品群も展示する美術館。
千曲川流域・市街エリア	東御中央公園	桜の名所として楽しめる公園であり、広大な敷地内にテニスコートやジョギングコース、アスレチックやロングローラースライダーなどの運動施設、遊具が充実している。
	丸山晩霞記念館	慶応 3 年（1867)、現在の東御市祢津に生まれた画家・丸山晩霞。郷土を代表する画家の不朽の名作が一堂に会する美術館。
	旧北国街道 海野宿	寛永 2 年（1625）に北国街道の宿駅として開設された海野宿。江戸時代の旅籠造りの建物と明治以降の蚕室造りの建物が調和して伝統的な家並みを形成しており、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている。
	白鳥神社	白鳥神社は、日本武尊の伝説を縁起とする神社で、信州は北国街道の宿場「海野宿」（現在の長野県東御市本海野）の産土神社でもあると共に、海野氏、また真田幸村で有名な、真田氏の氏神として祀られた歴史のある神社。
	媒(なかだち)地蔵尊	通称「縁結び地蔵」。加賀藩の前田公が参勤交代の道中にお参りしたところ、良縁に恵まれなかった御姫様が結婚できたという霊験が伝わる。
	海野宿資料館	奈良時代の海野郷の起こりから、中世・海野氏の解説、江戸期の海野宿、明治期の養蚕・蚕種業の資料を展示している。
	海野宿玩具館	なつかしい郷土玩具の展示館として、全国から集められた千余点の民芸玩具が並んでいる。

	矢島行康記念館	明治期に養蚕業振興に尽力した矢島行康の邸宅。平田篤胤の養子・鉄胤の門下で岩倉具視とも親交があり、蚕種製造に力を注ぎ、地域発展の礎を築いた。
	海野宿滞在型交流施設「うんのわ」	歴史のふる里を想わせる静かな佇まいの海野宿にある「うんのわ」は、明治期に建てられた蚕室造りの古民家を重厚な雰囲気そのままにリノベーションした観光案内所。敷地を含む施設全体が歴史的建造物であり、往時の魅力にふれる施設となっている。宿泊施設営業に向け令和 6 年度リニューアル工事実施
	中曽根親王塚古墳	5 世紀前半に築造されたとみられる方墳で、県下最大、国内９番目の大きさの墳丘です。東信州の古代史を塗り替えるかもしれない重要史跡。
	足穂神社	江戸期の村社で戸隠講の飯縄権現が祀られていました。真田信之により松代へと移築された海野氏ゆかりの寺院「願行寺跡」と推定される旧心光寺跡の周辺に位置する。
	興善寺	海野氏の菩提寺。開基、海野幸棟を供養した「小太郎様の碑」が守られている。墓碑手前の平石は「善淵王の御座石」と呼ばれている。

東御市を代表する観光施設・商業施設	
湯の丸高原ビジターセンター	湯の丸高原の玄関口にあるビジターセンター。上信越高原国立公園・湯の丸高原の自然や動植物の情報を展示・解説するほか、トレッキングルート案内、ネイチャーツアー受付をしている。
池の平インフォメーションセンター	池の平湿原の自然環境、貴重な動植物の情報を解説するネイチャーマイスターが常駐し、体験プログラムなどのガイドも行っている。
湯の丸スキー場	都心から最も近いパウダースノーエリアとして、初心から上級者まで楽しめるスキー場。
湯の丸キャンプ場	バンガロー10 棟、テントサイト数 70、炊事場施設、トイレ完備のキャンプ場。日中は隣接する臼窪湿原の散策やトレッキング、夜は満天の星空の下でキャンプファイヤーが楽しめる。 ４年湯の丸高原テレワーク施設増設
道の駅「雷電くるみの里」	江戸時代に天下無双と謳われた力士雷電為右衛門の生誕地と、日本一のくるみの産地であることから名付けられた道の駅。特産品の巨峰・くるみなど新鮮な地元農産物が人気であり、市内外から多くの方が訪れる。
浅間高原カントリー倶楽部	東部湯の丸ＩＣから約 10 分、烏帽子岳山麓に広がるこのゴルフ場は、八ヶ岳・北アルプスを 360 度で一望でき、雄大な自然に抱かれた景観美あふれるコースが魅力の高原コースとなっている。

温泉（日帰り・宿泊施設）	市内には、浅間烏帽子火山群の恩恵により、奈良原温泉、金原温泉、みずほ温泉、千曲川温泉、布下温泉、八重原温泉の６つの源泉を有しており、登山客からスキーヤー、温泉を目当てに訪れる観光客に至るまで幅広く楽しむことができる。
OH！LA！HO　BEER	国際ビール大賞、ジャパン・アジア・ビアカップなど数々の賞を受賞し、国内外から高い評価を得ているクラフトビール工場。
ヴィラデスト　ガーデンファームアンド　ワイナリー	2003 年に東御市初のワイナリーとして、エッセイスト・画家の玉村豊男さんが開業したワイナリー。市特有のテロワールが上質のワインを育むことなどから、伊勢志摩サミットでは晩餐会のワインに選定されるなど、市内外で注目されている。
アルカンヴィーニュ	2015 年に開業したワイナリーで、自社ブランドのほか新規就農者からの委託ワインを醸造している。栽培・醸造・ワイナリー経営を学ぶワインアカデミーを開催しており、全国からワイナリー経営を目指す人たちが集まっている。例年 20～30 名の受講生を受入
リュードヴァン	ワイン用ぶどう栽培の適地を求め、市内の耕作放棄地を開墾して 2010 年自社蒸留所とカフェ＆レストランをオープンさせたワイナリー。ワインと共に生きていたいという作り手の思いが優れたワインを生み出している。
のらのらふぁーむ＆ワイナリー	新しい農業のビジネスモデルとなるべく、ぶどう作りから加工、販売までを一貫して手がける６次産業のパイオニアを目指すワイナリー。上田市に直営アンテナショップを開設している。6 年度名称変更
東御ワインチャペル	10 年以上教会として使われていた建物を改装したレストラン。市内はもちろん千曲川ワインバレーの各種ワイン取り揃えたレストランでは、シニアソムリエのマダムとシェフの地元食材を活かしたオリジナル料理とのマリアージュが楽しめ、周辺市町村からも訪れる、街なかのランドマーク的ワインレストランとなっている。
湯楽里館ワイン＆ビアミュージアム	ワイン&ビアミュージアムは東御市を始めとした千曲川ワインバレーのワインを知り、体験していただく施設として誕生した。館内には、ワインの試飲コーナーや展示エリアがあり、専属のワインコンシェルジュも常駐している。ワインの飲み比べを楽しんだり、近隣ワイナリーについてより深く知っていただくことができる施設となっている。
田中商店街	しなの鉄道田中駅前周辺を中心とする北方約 310m、東方約 450m にかけて形成されている商店街。以前は宿場町であった北国街道田中宿が発展し、形成された東御市で最大の商店街。明治時代に宿場機能が失われてからは製紙業、1938 年（昭和 13 年）頃には特に繭糸の集荷などの栄えを経て現在に至る。
北国街道海野宿内の商業店舗	江戸期、明治期の歴史的建造物が大切に保存されている海野宿内には、街道筋 650mの範囲に、そば屋などの飲食店や雑貨店、ガラス工房、土産店などが立ち並ぶ。
観光農園（ぶどう狩り・りんご狩り）	東御市は巨峰の一大産地であるほか、果樹栽培も盛ん。和地区を中心に観光農園が点在し、県外からの来訪者も多い観光施設となっている。

アトリエ・ド・フロマージュ	1982 年創業以来、原料と製法にこだわり、最高品質の乳製品を世に送り出している信州で始めての手づくりチーズ工房。フランストゥールで開催された 2015 年国際ナチュラルチーズコンテストで最高賞のスーパーゴールドを受賞するなど、多数の受賞商品がある。

東御市を代表する特産品、名産品	
巨峰を核にシャインマスカットやナガノパープルなどのぶどうの産地	巨峰栽培は、昭和 31 年から導入され農業の機関作物として取り組まれてきた。特に、昭和 37 年からの各種事業により、団地造成と巨峰部会を中心に栽培技術の研究、共同出荷体制の推進、また畑地灌漑により、全国有数の巨峰ぶどう産地となっている。
くるみ	くるみ栽培に適した気候風土から歴史は古く、明治始めから導入され、大正時代には本格的に栽培されるようになり「日本一のくるみの里」を形成している。近年ではくるみのα－リノレン酸が注目されている背景から全国的に有名になっている。
白土馬鈴薯	その肌の白さから「白土馬鈴薯（はくどばれいしょ）」「白いも」と呼ばれている。強粘土質の土壌で昼夜の温度差が大きく、降水量が少ないなどの環境が、デンプンと旨味をたっぷりたくわえたおいしいジャガイモを育んでいる。
スイートコーン	本市特有の気候風土がもたらすスイートコーンは、さわやかな甘さと非常にやわらかい粒皮が特徴であり、全国的に注目されている。
八重原米	水資源の乏しい八重原台地に、江戸時代初期に開削された総延長 50 数キロにも及ぶ用水路が、蓼科山から湧出する豊富なミネラル水を運び、また本市特有の昼夜の寒暖差と強粘土質の肥沃な土壌により、香り豊かで冷めても美味しい最上級米を育んでいる。
東御ワイン	降水量が少なく日照時間が長い気候と、水はけが良く土壌の質がワイン用ぶどうの栽培に適している東御市。とりわけ欧州系品種の栽培に適しているといわれており、シャルドネ、メルロー、カルベネ・ソーヴィニオン、ピノ・ノワールなどから生み出される上質なワインは、国際的にも高い評価を得ている。現在 15 ワイナリーが点在している
戒立高原そば	湯の丸高原を背に、標高 700m以上の高原冷地が広がる原口そばの里は、昼夜の寒暖の差が大きく霧が多いという地域特有の気候条件が香り高いそばの実を育んでいる。
信州黄金シャモ	信州黄金シャモは「シャモ」と「名古屋種」の在来種を掛け合わせて作られた、信州生まれのブランド地鶏。とや原ファームでは、信州黄金シャモを健康で安全に飼育するため、のびのび育てるような広い鶏舎で、薬品に頼らず、時間をかけて、愛情をこめて育てている。
信州プレミアム牛	長野県産トップブランド「信州プレミアム牛」の生産者である牧舎みねむらでは、牧舎で生まれた子牛から出荷まで一貫飼育している。ふるさと納税でも人気の商品。

様式１

東御市を代表するイベント、お祭り	
湯の丸高原・スキー子どもの日 （１２月～３月）	毎月第1・3日曜日を「スキーこどもの日」と定めたキッズイベント。小学生以下の子供はリフト無料でスキーを楽しむことができる。
海野宿ひな祭り （３月）	北国街道海野宿の街道沿いの家々に雛人形を飾り、格子越しから鑑賞できる。イベント最終日前夜には、街道沿いを行灯でライトアップし、冬の街道を彩る。
湯の丸スキー大会 （３月）	過去59回を数える伝統あるスキー大会で、小学生から壮年まで16部門、12階級に分かれて開催されるジャイアントスラローム大会。
湯の丸ボード大会 （３月）	過去20回を数えるボード大会。男女各2クラス、年齢別カテゴリーで競技が行われている。
祢津東町歌舞伎公演 （４月２９日）	有形民俗文化財である東町の歌舞伎舞台で毎年4月29日に歌舞伎上演が行われている。東町歌舞伎保存会を中心に、地元小学校の歌舞伎クラブの生徒が民話・伝説を児童劇として上演します。西宮歌舞伎は7年一度開催予定。
雷電くるみの里・雷電まつり （５月）	天下無双の名力士雷電為右衛門の生誕地を祝って毎年開催されるイベントで、子ども相撲大会や各種ステージ発表などを楽しむことができる。
湯の丸高原山開き （６月）	湯の丸高原の夏山シーズンの入りを告げる山開きで、浅間・烏帽子火山群の平穏と登山者の安全を祈願している。山開き以降、ネイチャーマイスターが池の平湿原に常駐する。
湯の丸高原つつじ祭り （６月）	6月上旬～下旬、一目60万株の天然記念物のレンゲツツジが咲き誇る時期に合わせ、湯の丸高原第1ゲレンデの特設会場で開催されるお祭り。ステージ発表や特産品の販売、抽選会などを行っている。
祢津祇園祭 （７月第二土曜）	西宮区と東町区のけんか神輿で知られ、江戸時代から続く伝統のお祭り。担ぎ手たちの威勢のよいかけ声とともに、神輿が両区内を巡り、午後９時には東町・西宮双方の神輿がぶつかり合う勇壮なお祭りとして知られている。
田中祇園祭 （７月第三土曜）	午後2時半から9時まで商店街が歩行者天国になり、子ども神輿や、パントマイム・すいか割り・その他様々な催しがある。夕方からは、地区神輿が商店街を巡る。
海野宿にぎわい夏祭り （７月～８月）	国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている東御市本海野の海野宿を会場に、マルシェや街道筋の軒下に連なる風鈴の音色、イベント開催日の夜に打ち上げられる花火が魅力です。
金井の火祭り （７月）	金井地区の伝統的な火祭りです。1742（寛保2年）8月に千曲川流域で発生した大洪水により亡くなった人の供養と五穀豊穣、無病息災を祈ったもの。
出場の火祭り （７月）	東御市のほぼ中心に位置する出場地区の火祭り広場で開催される雨乞いと虫送りの伝統的な火祭り。投げ松明、振り松明の後は、大松明への火付けの攻防戦が行われる。
雷電まつり （８月第一土曜）	毎年8月第1週の土曜日に開催される市民祭り。歌やダンスのステージや各種イベント、露店が揃い賑わう。祭りのクライマックスには老若男女の踊り手が田中商店街を練り歩く。

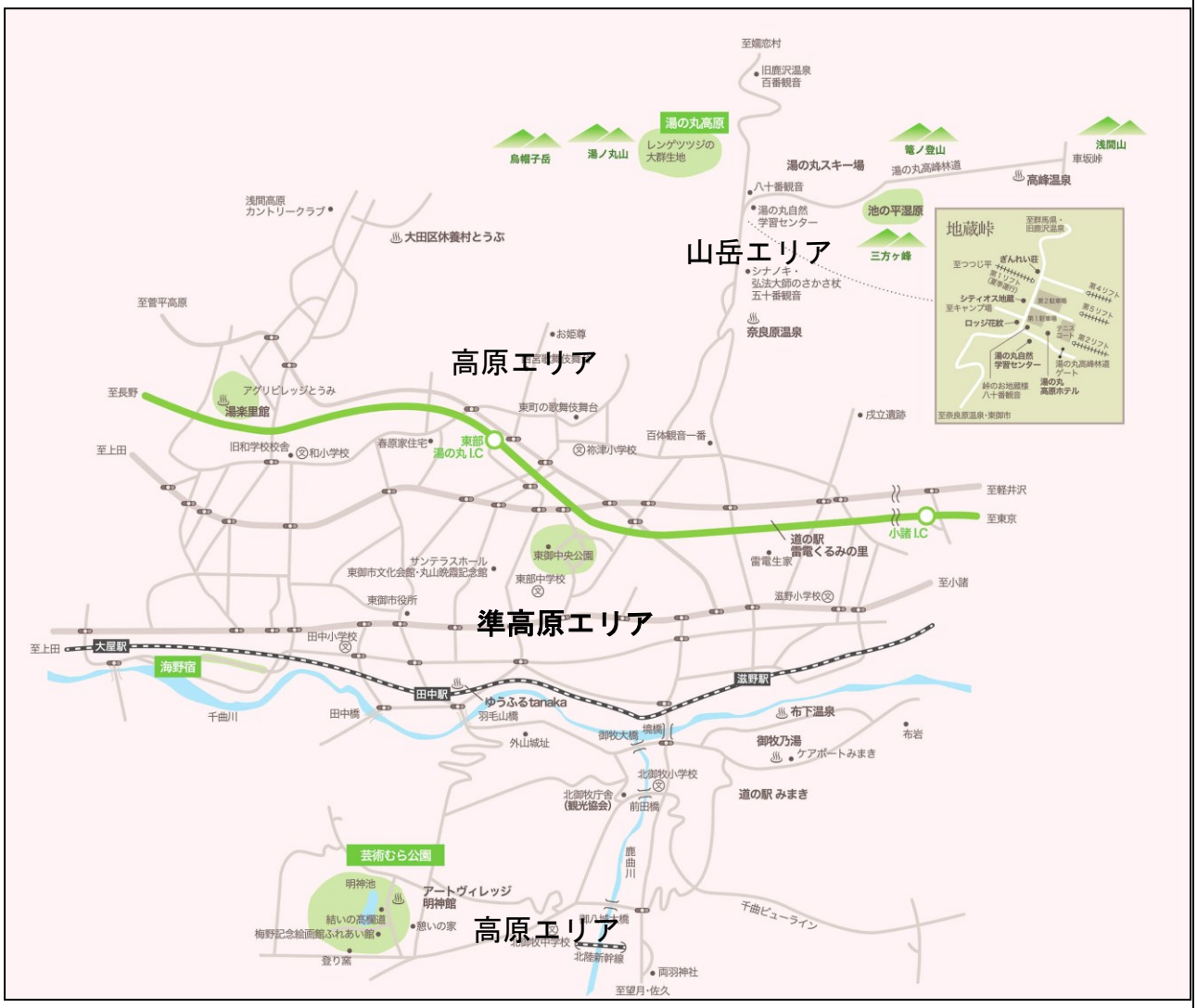
田中花市 （８月１２日）	田中商店街で開催される花市で、お盆の飾り物や生花の販売の他にも露店が出店する田中の夏の伝統行事。花市ジャズライブなどの催し物もあり、多くの人で賑わう。
みまきニュードカンコ （８月）	毎年お盆の 14 日、北御牧地区では夏祭りが開催される。地元団体によるステージや遊びの広場、軽食の販売、花火大会などが行われる。
東御ワインフェスタ (５月)	東御ワインクラブ主催のワインイベントであり、田中駅近くの特設会場で毎年開催されます。市内のワイナリーなどが出店し、千曲川ワインバレーのワインやクラフトビール、地元食材を楽しむことができる。地元ワインが例年 80 種以上を飲み比べ出来る
巨峰の王国まつり （９月中旬）	東御を代表する巨峰をテーマとした収穫祭。巨峰の直売はもちろん、地元農産物、特産物、加工品等の販売や、遊びのコーナー、ステージなど多彩な催しが魅力。
火のアートフェスティバル （１０月上旬）	芸術むら公園一帯で開催される自然とアートをテーマとしたイベント。満天の星空に真紅の炎が鮮やかに映し出される登り窯の焼成、陶器市・クラフト市や芸術のワークショップなどアートをテーマとした多彩な催しが行われる。
天空の芸術祭 （１０月）	八重原台地と御牧原台地を中心に「北御牧」地区と海野宿で開催されるアートイベント。メイン会場となる芸術むら公園では祭典のキックオフとして火のアートフェスティバルが開催される。
街なかハロウィン （１０月）	中心市街地の田中駅前、田中商店街をイベントフィールドに使ったハロウィン・フェスティバル。子どもから大人までちょっとした仮装でも気軽に参加できる。
湯の丸高原冬山安全祈願祭 （１１月）	湯の丸スキー場の本格稼動を前に、冬山の平穏と来訪者の安全を祈願する神事。第一リフトでテープカットが行われ、プレオープンを迎える。
海野宿ふれあい祭り （１１月）	旧北国街道海野宿で白鳥神社の秋の例大祭に併せて開催される祭典。時代衣装行列や浦安の舞の奉納、人力車など多彩な催しのほか、名物「くるみおはぎ」「海野ほうとう」を目当てに大勢の方で賑わう。
滋野くるみ祭り （１１月）	道の駅「雷電くるみの里」で開催されるくるみの収穫祭。取れたてのくるみの販売やくるみおはぎの試食、くるみ料理のコンテストなど、日本一のくるみの里ならではの催しが開催される。
湯の丸スキー大会 （３月）	毎年３月の第１日曜日に、湯の丸スキー場で開催されるスキー大会。小学生からシニア部門まで幅広い層を対象に開催しており、関東エリアからも多数出場される。

様式１

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

（１）域内分布図

宿泊施設は郊外に広く分布しているのが特徴。



（２）宿泊施設名称及び収容人員

宿泊施設は郊外に点在しており、近年は民泊や一棟貸しのゲストハウスといった施設の開業が増加している。①湯の丸高原ホテルの収容人数が最大で、280 名となっており、小・中規模の宿泊施設が多くなっている。

【山岳エリア】

施設名	収容人員	施設名	収容人員
①　湯の丸高原ホテル	280	⑥奈良原温泉・あさま苑	40
②　湯の丸高原荘	112		
③　シティオス地蔵	100		
④　ロッジ花紋	30		
⑤　西川ペンション	27	計	589

【高原エリア】

施設名	収容人員	施設名	収容人員
⑦ 大田区休養村とうぶ	210	⑫ アートヴィレッジ明神館	48
⑧ 清水さんの家（民泊）	8	⑬ 芸術むら公園コテージ（5 棟）現在稼働２棟	8
⑨ 農の家	6	⑭ 御牧原てらす	5
⑩ たんぽぽ You 農	4	⑮ Glass&grass（民泊）	5
⑪ ペンションさゆーる	16	計	310

【準高原エリア（千曲川流域)】

施設名	収容人員	施設名	収容人員
⑯ 海野宿滞在型交流施設うんのわ 2025 年再開予定		㉑ ときの譜(民泊)	8
⑰ きじま荘	15	㉒シャンブルドット・リュードヴァン（民泊）	4
⑱ 布引観音温泉	36	㉓ 一棟貸し宿 上州屋	8
⑲ おみやど（民泊）	8		
⑳ Nagano branch（民泊）	6	計	85

【利便性：区域までの交通、域内交通】

東御市は、首都圏から見て長野県の玄関口である東信州に位置しており、市街地ゾーンを形成する千曲川に並行して、しなの鉄道、国道 18 号線、上信越自動車道、主要地方道上田小諸線（浅間サンライン)、千曲川左岸広域農道（千曲ビューライン）といった主要交通網を有し、首都圏からのアクセスに恵まれた地域となっている。

市の中心市街地の北部に位置する上信越自動車道東部湯の丸ＩＣは、関越自動車道練馬ＩＣから車でおよそ１時間３０分の距離にあるほか、北陸新幹線を利用しても東京駅から１時間３０分程度とほぼ変わりなく、首都圏からのアクセスは極めて良好な立地条件を有している。

鉄道： 東京駅 －（ＪＲ北陸新幹線）－ 上田駅 －（しなの鉄道）－ 田中駅
高速バス： 新宿・池袋・立川 － 東部湯の丸ＩＣ又は東御市役所前
車： 練馬ＩＣ－（関越自動車道）－藤岡ＪＣＴ－（上信越自動車道）－東部湯の丸ＩＣ

市内の交通網は、通勤通学に利用されている定時定路線バスの他、予約制相乗りタクシーであるデマンド交通が市内全域を網羅しています。令和 5 年 3 月からは AI 導入により効率的に運行がされ始めた。

一方、鉄道を利用して本市へ訪れた方の交通手段がタクシーに限定されてしまっており、自家用車を利用した来訪が多いことの一旦とも、なっていると考えられる。ワイナリー訪問には、域内の二次交通の整備が必要なことから、ワインタクシーを整備しているが、回遊性向上のためにはより安価な交通手段が望まれる。

【外国人観光客への対応】

コロナ以前は、主に台湾・中国等のアジア圏からの外国人観光客が、冬季の湯の丸高原スキー場及び歴史的・文化的資源である旧北国街道「海野宿」に訪れていたが、千人弱と極めて少ないのが実態。平成 28 年度に本市最大の観光資源である湯の丸高原をはじめ主要観光資源 5 箇所に、東御市により無料公衆無線 LAN 環境が整備され、平成 30 年度には、多言語観光紹介サイト「Guidoor」(8 言語)を開設した。令和元年度にはボランティアグループおもてなしネットワークが開設した東御市内の観光紹介サイト（6 言語）の制作・運営協力を行った。

平成 30 年度にはしなの鉄道と台湾鉄路管理局が「友好協定」を締結した際、双方に「田中」という同名駅があることから、両駅の「姉妹駅協定」も締結。その後駅構内における 2 言語歓迎バナー設置に始まり、台湾からのマスコミファムトリップの受け入れ、台湾メディアと協力した動画配信など、特に台湾向けに注力してしなの鉄道及びしなの鉄道インバウンド連絡協議会と協力してプロモーションを行った。QR Translator（海野宿、湯の丸 4 か国音声ガイダンス)、観光案内所にポケトークを設置、また令和 6 年度から訪日外国人のカウントを始めた（65 人）

5 年度は田中駅姉妹提携の先の台湾田中マラソンに近隣協会連携して出向いてプロモーションや台湾で有名な女優田中千絵を活用した番組放映を実施（観光庁)、6 年度は周辺観光協会と連携で台湾においてプロモーションを実施。その交流に応え台湾実行委員会が４月長野マラソン参加に合わせ、しな鉄田中駅に来訪。

様式１

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
・旅行消費額 ・有料コンテンツの体験有無	経済効果の指標として把握するほか、観光客の市内での行動の分析とニーズの把握のため	市内来訪者に対し来訪者満足度調査カードや掲示からリンクしたGoogleフォーム方式により収集実施
・延べ宿泊者数 ・宿泊施設定員稼働率	経済効果の指標として把握するほか、観光客の宿泊前後の周遊動向を把握して市内観光資源の満足度、再来訪の意向を調査し、観光地域づくりへつなげるため	宿泊施設からの実績データ収集
・来訪者満足度 ・再来訪意向	市内観光の質の向上及び、ファンとリピーターの獲得のため	市内来訪者に対し来訪者満足度調査カードや各宿泊・観光施設の掲示からGoogleフォーム方式により収集実施
・リピーター率	市内観光の満足度の調査、ファンとリピーターの獲得のため	同上
・情報収集源	効果的・効率的なプロモーションを行うため	上記のほか観光庁、観光情報紙やMJ新聞など多方面からトレンド情報収集
・地域、市内滞在日数	経済効果の指標として把握するほか、観光客の宿泊前後の周遊動向を把握して市内観光資源の満足度、再来訪の意向を調査し、観光地域づくりへつなげるため	宿泊施設データ、各施設からの聞き取りや理事会・総会などの情報交換会を活用
・体験プログラム利用者数	有料体験コンテンツのニーズの把握及び、市内での観光客の行動把握により、東御市のファンとリピーターを獲得するため	グリーンツーリズム、海野宿ガイド、湯の丸高原トレッキングガイドの実施件数を収集
・WEBサイトのアクセス状況	観光情報収集の状況を把握し、提供するサービス、商品の向上に取り組むため（PV数）	Googleアナリティクスによる調査
・三大観光地利用者数	経済効果を把握するための基礎データ、観光施策による効果を測定するため	東御市による収集
住民満足度（参考）	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	東御市民意識調査報告書から参考として活用

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

※地域経済、社会等の状況を踏まえた観光地域づくりの背景

東御市では、キャンペーンやイベントを中心とした観光振興施策から、平成 29 年の DMO 候補法人登録を経て、地域の自然環境や景観、地域が大切にしてきた伝統や文化、新たな産業などに触れて体験する体験型観光の推進へと転換を図り、令和 3 年度には本登録となった。候補法人登録後、来訪者の動向や観光消費額、ニーズの把握等に努めてきたが、コロナ禍もあり観光客数は伸び悩む厳しい現状となっている。観光消費額の点でも、長野県、上田エリアと比較して日帰り、宿泊共に一人あたりの単価が低い傾向にあり、観光による地域経済へのインパクトは依然として低い状況にある。
また、市内宿泊施設の稼働率は県内でも最低水準であり、市内公共交通の不足のほか、プロモーション不足、受け入れ体制の整備といった点で課題も多い。
一方で、湯の丸高原における高地トレーニング施設の開設やふるさと納税の増加、大規模なワイン用ブドウ圃場の開設、新たなワイナリーの開業といった、話題性のあるトピックも多く、認知度の向上に追い風となっている。
東御市は都心から近く、満足度調査によるリピーター率も向上傾向にある。With コロナ時代には密を避け、郊外や屋外での癒しを目的とした旅行やリモートワーク、ワーケーションが増加している。令和 4 年度には湯の丸高原に新たにワーケーション施設やも開設され、それらを好機ととらえ、目的志向型の個人旅行を主なターゲットとして、区域の事業者や住民と力を合わせて取り組むことにより、観光交流人口を“関係人口”へと拡大させ、地域の特産品を生かした物の開発などと併せて、地域経済の活性化にも繋げる観光地域づくりを更に推し進めていくこととする。
令和 5 年はコロナ禍明けとして軽井沢に住まう別荘族や訪れる観光客などの呼び込みのため宿泊施設、飲食施設などと連携しながら営業を始めている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・自地域で積極的に活用できる強みは何か？ ・降水量が少なく、晴天率の高さと日照時間の長さが全国トップクラスである ・くるみの生産量が日本一 ・巨峰やワイン用ぶどうなど、日本有数のブドウ栽培の適地である 市内にワイナリーが 15 軒あり、小規模の個性的なワイナリーが多い 標高差 1500mの優れた農山村景観 都心から 2 時間程度で移動が可能な立地条件 上信越高原国立公園に属し、湯の丸高原や池の平湿原の山岳高原観光資源がある 国立公園内の山々は標高 2000m級で初心者も安心して登れる 湯ノ丸山には国の天然記念物であるレンゲツツジの大群落があり、池の平湿原は高山動植物の宝庫として知られている 標高 1750mの湯の丸高原に、高地トレーニング施設がオープン	弱み（Weaknesses） ・自地域で改善を必要とする弱みは何か？ 知名度不足 情報発信不足 観光資源への二次交通が不十分 宿泊稼働率が低い 地域食材を活かした飲食店が少ない 文化、歴史、芸術、産業を観光資源として活かしきれていない 観光客を受け入れできるワイナリーが少ない 地域の特徴を生かしたお土産物の種類が少ない 大人数を受け入れ可能な飲食施設が少ない 子ども向けの施設が少ない インバウンド受入体制が整備不足 自動車道が中心となっており、自転車道や歩行者道が整備されていない 地域独自の価値を地域全体で共有できていない 地域が主体的に来訪者の受入環境を整備しようという意識が低い

	日本の道百選に選定されている北国街道「海野宿」 **海野宿は「重要伝統的建造物群保存地区」に指定** **天下無双の力士「雷電為右衛門」生誕の地である** **身体医学研究所による健康増進体制が確立されている** **年間 55 万人のレジ通過者がある道の駅「雷電くるみの里」** **多様な泉質を楽しめる公共温泉施設が市内に４つある**	**地域にワイン文化が浸透していない** **ゴールデンルートの導線にない** **郷土への愛着心、誇りが衰退傾向にある**
外部環境	**機会（Opportunity）** **・自地域にとって追い風となる要素は何か？** 湯の丸高原の高地トレーニングプールが JOC（日本オリンピック委員会）認定競技別強化センター（水泳競技強化センター）に認定 湯の丸高原の高地トレーニング施設を利用したトップアスリートの合宿受け入れによる、知名度の向上　ワーケション施設 ふるさと納税の増加 田舎暮らしや健康を求めるスローライフの浸透 ワイナリーの増加 御堂地籍に約 28 ヘクタールのワイン用ぶどう生産団地でのブドウ育成 ワーケーション、テレワークの浸透 キャンプや軽登山といったアウトドアアクティビティ人気の高まり 2024 年東御市発足 20 周年 祢津御堂ワインぶどう団地完成 2025 年海野宿開宿 400 年　雷電没後 200 年 2027 年信州 DC 2028 年国民スポーツ大会	**脅威（Threat）** **・自地域にとって逆風となる要素は何か？** 近隣市町村（上田、軽井沢）の圧倒的な知名度と人気 日帰り旅行地としての認識 少子高齢化と人口減少の進行 進学や就職を機に市外へ転出したまま戻らない若者 地球温暖化に伴う気候変動 スキー人口の減少 近隣市町村に多数のワイナリーの開業 新型コロナウイルスによる観光客の減少 湯の丸高地トレーニング施設に対する市民への説明不足

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
※ターゲット層については、地域だけでなく、国・地域・世代・誘客のテーマ等の顧客の属性による設定が考えられる。
①（趣味嗜好）自然、ワイナリー、ヴィンヤードに癒しを求める
②（居住地）首都圏在住の
③（旅行の趣向）個人旅行、体験型旅行を好む
④（旅行の期間）短期滞在者（日帰り～１泊）

〇選定の理由
※４．戦略（１）・（２）の分析を踏まえたターゲット層の設定であることを説明すること。

来訪者の多くが自然景観や自然とのふれあい、食の体験を目的として当市を訪れており、巨峰などのぶどうをはじめ、信濃くるみやワインなどの農産物、加工品についても関心度が高くなっています。ワインに関しては、飲食費、お土産購入費、交通費などの消費の可能性が高く、グリーンツーリズム等の体験型コンテンツと組み合わせることで、地域への滞在時間の長時間化、消費の増加を見込むことができます。また、約 28ha の荒廃地を再生した祢津御堂地区ワイン用ぶどう団地でのぶどうの育成が始まり、新たなワイナリーの開業も予定されていることから、話題性にも富み、来訪者の増加が見込めるため。

（引用元調査資料）

東御市観光調査報告書　(株)マーシュ　２０１６年９月９日

東御市観光マーケティング調査等業務委託報告書　平成２９（２０１７）年２月　長野経済研究所

〇取組方針

湯の丸高原トレッキングガイドやグリーンツーリズムといった、当市の自然、農にふれあい、ワインと共に食をゆっくり味わう、ゆったりとした時間を過ごすことができるコンテンツを充実させ、体験をイメージしやすい動画などを活用したプロモーションを行います。特にワインを基軸とした体験型ツーリズムによって産業観光の付加価値を高め、他地域と差異を付けることで、消費行動の喚起につなげます。また、満足度調査から各コンテンツや施設の質の向上にも努めます。

〇第２ターゲット層

①（趣味嗜好）アウトドアアクティビティやスポーツに取り組む（健康志向の）
②（居住地）首都圏在住の
③（旅行の趣向）個人旅行、家族旅行をする
④（旅行の期間）中期滞在者（2 泊～4 泊）

〇選定の理由

本市最大の観光資源であり、最も来訪者が多い「湯の丸高原・池の平湿原」では、これまでのトレッキング、スキー・スノーボードといったアウトドアアクティビティに加え、高地トレーニング施設ができたことにより、ウォーキング、ランニング、水泳などのスポーツの受け皿が整備されています。それにより、今後新たな層を取り込んだ来訪者の増加と消費の可能性が見込めます。

〇取組方針

首都圏を中心に、東御市へのアクセスの良さや湯の丸高原の自然、施設の利点などのプロモーションを強化し、満足度調査から更なる質の向上に努めます。（公財）身体教育医学研究所や（一社）とうみ湯の丸高原スポーツコミッションと協力し、高地や自然環境における活動の効果検証を元に、健康を意識した活動プログラムの提供を行います。
また、道の駅雷電くるみの里でのお土産購入や市内飲食店、ワイナリーでの食事といった市街地での観光コンテンツと結びつけることで、滞在時間の延長と消費の増加に努めます。

〇第３ターゲット層

①（趣味嗜好）歴史を好む
②（居住地）首都圏在住の
③（旅行の趣向）個人旅行、体験旅行を好む
④（旅行の期間）短期滞在者（日帰り～１泊）

〇選定の理由

重要伝統的建造物群に指定されている旧北國街道海野宿は、当市の観光資源のひとつです。NPO 法人海野宿トラストによるガイドツアーも実施されており、個人旅行から団体旅行まで、多くの観光客が訪れています。2019 年の台風 19 号被害により崩落した主要アクセス道である海野宿橋が 2021 年度に復旧、2022 年には善光寺前立本尊御開帳が開催。 　また、当市出身の江戸時代に活躍した力士「「雷電為右衛門」や歩き巫女（ノノウ）の里である祢津地区、同地区に残る日本最古の回し付き歌舞伎舞台など、あまり広く知られていない史跡等はプロモーションにより集客できる可能性があると考えます。 〇取組方針 海野宿では NPO 法人海野宿トラストと連携し、ガイドツアーの質の向上、インバウンド向けパンフレットの作成といった、プロモーションの強化に努めます。また、市の指定管理施設であるうんのわを中心に、定期的にイベント等を実施します。他の歴史資産についてはパンフレットや散策マップを作成し、デジタルスタンプラリー等を用いることで、史跡巡りと地域の飲食店やお土産物店とを連携し、消費の増加に努めます。
〇第４ターゲット層 ①（滞在地域）軽井沢へ訪れる ②（居住地域）台湾・中国を中心とした東アジアの ③（属性）外国人観光客
〇選定の理由 　湯の丸高原スキー場では、新型コロナウイルスの影響に左右されますが、台湾・中国といった東南アジア圏から訪れる来訪者があり、近年増加傾向にあることや、しなの鉄道と台湾鉄路管理局が「友好協定」を締結した際、双方に「田中」という同名駅があり、両駅の「姉妹駅協定」も行っていることから、新たなターゲットとして期待できます。 〇取組方針 しなの鉄道沿線インバウンド連絡会と連携し、台湾向けのプロモーションを強化します。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	※他地域と明確に区別できる特徴・価値等を来訪者に伝える表現を簡潔に設定すること。 「標高差 1,500m の“テロワール”の恵み　食彩の里」 （“地域ストーリー”がつむぐ“交流”のまち）
②コンセプトの考え方	※地域が目指すべき姿を明確にし、そのために地域ならではの産業、伝統、食、住、風習等やそこから導き出される区域の特徴（強み、価値）を、①コンセプトにどのように反映させているかについて他地域との差別化も踏まえて記入すること。 ※（１）～（３）のデータ分析の内容を踏まえて作成したコンセプトであることを説明すること。 「標高差 1,500mのテロワール」 湯ノ丸山から北国街道「海野宿」に至る、標高差 1,500mの河岸段丘に広がる東御市は、気候・地勢・土壌の個性＝「テロワール」の恵みよっても

	たらされる豊かな自然と農産物によって、そこに住まう私たちの生活が維持されてきたという歴史的背景があります。この地域特有の優れた“個性”に磨きをかけることの意思を表現しています。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	※戦略の共有方法について記入すること （例）部会、ワーキンググループ、ＨＰ、事業報告書の説明会 ・地域の多様な関係者（宿泊事業者、東御市副市長、東御市商工会長、（株）信州東御市振興公社取締役、JA 信州うえだ東御支所長、八十二銀行田中支店長、東御ワインぶどう協議会長、地域の観光資源の関係者）で構成する理事会を年に 2～3 回開催しています。その中で、戦略の共有、進捗状況、地域の社会情勢などの情報交換を行っています。
	（例）ＤＭＯを中心として、地域の関連事業者を集めてコミュニーションの場を○月に１回程度設けるとともに、関連事業者に対してのコンサルティング等を実施。 ・観光協会の会員である事業者に対し、毎年度事業終了後、行政も交えて、事業の経過説明及び来年度の事業計画、観光地域づくりの戦略について報告、意見交換を行う総会を実施しています。満足度調査の結果についても共有しています。会員へ定期的な情報提供 （例）活動の意義・内容・成果、ＫＰＩの達成状況や取組による地域経済・社会の変化の分析結果等を記載した事業報告書を作成し、地域の関係者に説明を行うとともに、ＨＰで公表。 ・市民や観光協会の会員に向けて、年に１回タウンミーティングを開催し、行政による観光ビジョンの説明、観光地域づくりについての啓発、地域の観光産業の状況の報告等を行っています。その場で意見交換をすることで、市民からの地域資源の情報提供も受けています。 議会において決算事業報告をしている。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	（例）飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質保証制度を実施。 来訪者満足度調査を継続的に実施することにより、地域ストーリー・プログラムに対するユーザー意向や関心度・満足度を測定し、これらに基づいてＰＤＣＡを回してサービスの維持・向上・評価を行い、地域内の多様な関係者間で共有しています。

様式１

	補助事業や観光施設情報を会員に定期的に配信
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	（例）ワンストップ窓口の実施、ＳＮＳを利用した効果的なプロモーションの実施。 地域固有の暮らしや文化、歴史、産業にまで踏み込んで、本市の魅力的な地域資源を一元的に収集して情報発信するプラットホーム型の「観光情報ステーション」を運営しています。 また、情報にアクセスしやすく、魅力的な HP づくりに努めています。また、Instagram や Facebook といった SNS、会員制のメール配信（とうみファン倶楽部）、YouTube といったツールを活用し、情報接触の機会を増やしています。地域や会員からの情報提供を合わせて一元的に発信

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（R9）年度
●旅行消費額（億円）	目標	45.0 （ ）	45.0 （ ）	47.5 （ ）	48.5 （ ）	48.5	50.0
	実績	22.1 （ ）	52.1 （ ）	50.5 （ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	56.0 （ ）	56.0 （ ）	58.0 （ ）	59.0 （ ）	59.5	60.0
	実績	25.8 （ ）	49.8 （ ）	59.3 （ ）			
●来訪者満足度（%）	目標	72.3 （ ）	72.3 （ ）	74.0 （ ）	76.0 （ ）	76.0	76.0
	実績	92.0 （ ）	91.8 （ ）	94.3 （ ）			
●リピーター率（%）	目標	66.0 （ ）	66.0 （ ）	67.0 （ ）	70.0 （ ）	70.0	70.0
	実績	87.0 （ ）	87.0 （ ）	46.7 （ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

・・・

●延べ宿泊者数

・・・

様式１

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

※ＫＰＩとして設定する項目や年次及び目標数値に関して、その検討のプロセスや考え方を項目ごとに出来る限り具体的に記入すること。

・・・

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）		
2022（Ｒ４）年度	74,039,000（円）			（円）
		【国からの補助金】		6,000,000
		【都道府県からの補助金】		100,000
		【市町村からの補助金】		9,820,000
		【公物管理受託】		40,586,000
		【収益事業】		12,953,000
		物販収入	3,111,000	
		駐車場収入	7,195,000	
		旅行業収入	1,096,000	
		広告宣伝収入	1,551,000	
		【会費】		3,000,000
		【特定財源（宿泊税、入湯税、負担金等）】		等 0
		【その他雑収収入】		1,580,000
2023（Ｒ５）年度	59,264,000（円）			（円）
		【国からの補助】		5,500,000
		【都道府県からの補助金】		1,088,000
		【市町村からの補助金】		9,800,000
		【公物管理受託】		24,020,000
		【収益事業】		13,169,000
		物販収入	2,989,000	
		駐車場収入	7,727,000	
		旅行業収入	1,298,000	
		広告宣伝収入	1,155,000	
		【会費】		3,060,000
		【その他雑収収入】		2,627,000
2024（Ｒ６）年度	62,936,000（円）			（円）
		【国からの補助】		8,600,000
		【都道府県からの補助金】		445,000
		【市町村からの補助金】		9,800,000
		【公物管理受託】		26,605,000
		【収益事業収入】		12,448,000
		物販収入	2,840,000	
		駐車場収入	6,840,000	
		旅行業収入	2,108,000	
		広告宣伝収入	660,000	
		【会費収入】		3,005,000
		【その他雑収収入】		2,033,000
2025（Ｒ７）年度	48,870,000（円）			（円）
		【国からの補助】		0
		【都道府県からの補助金】		0
		【市町村からの補助金】		9,800,000
		【公物管理受託】		26,000,000

様式１

		【収益事業収入】	9,320,000
		物販収入	1,500,000
		駐車場収入	5,500,000
		旅行業収入	1,000,000
		広告宣伝収入	1,320,000
		【会費収入】	3,150,000
		【その他雑収収入】	600,000
2026（Ｒ８）年度	48,870,000（円）		（円）
		【国からの補助】	0
		【都道府県からの補助金】	0
		【市町村からの補助金】	9,800,000
		【公物管理受託】	26,000,000
		【収益事業収入】	9,320,000
		物販収入	1,500,000
		駐車場収入	5,500,000
		旅行業収入	1,000,000
		広告宣伝収入	1,320,000
		【会費収入】	3,150,000
		【その他雑収収入】	600,000
2027（Ｒ９）年度	48,870,000（円）		（円）
		【国からの補助】	0
		【都道府県からの補助金】	0
		【市町村からの補助金】	9,800,000
		【公物管理受託】	26,000,000
		【収益事業収入】	9,320,000
		物販収入	1,500,000
		駐車場収入	5,500,000
		旅行業収入	1,000,000
		広告宣伝収入	1,320,000
		【会費収入】	3,150,000
		【その他雑収収入】	600,000

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	72,424,000（円）		（円）
		【一般管理費】	20,755,000
		【情報発信・プロモーション】	13,221,000
		※可能であれば国内外の割合を記載	
		【受入環境整備等の着地整備】	28,690,000
		【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】	7,000,000
		【観光イベントの開催費】	2,758,000
2023（Ｒ５）年度	58,188,000（円）		（円）
		【一般管理費】	19,014,000
		【情報発信・プロモーション】	10,396,000
		※可能であれば国内外の割合を記載	
		【受入環境整備等の着地整備】	18,679,000
		【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】	9,053,000

様式１

		【観光イベントの開催費】　1,046,000
2024（Ｒ６） 年度	61,962,000（円）	（円） 【一般管理費】　21,020,000 【情報発信・プロモーション】　8,215,000 ※可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】　21,864,000 【コンテンツ開発（観光資源の磨き上げ）】　9,150,000 【観光イベントの開催費】　等　1,713,000
2025（Ｒ７） 年度	46,000,000（円）	（円） 【一般管理費】　19,000,000 【情報発信・プロモーション】　13,000,000 ※可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】　8,500,000 【観光イベントの開催費】等　5,500,000
2026（Ｒ８） 年度	46,000,000（円）	（円） 【一般管理費】　19,000,000 【情報発信・プロモーション】　13,000,000 ※可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】　8,500,000 【観光イベントの開催費】等　5,500,000
2027（Ｒ９） 年度	46,000,000（円）	（円） 【一般管理費】　19,000,000 【情報発信・プロモーション】　13,000,000 ※可能であれば国内外の割合を記載 【受入環境整備等の着地整備】　8,500,000 【観光イベントの開催費】等　5,500,000

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

区域を構成する地方公共団体における宿泊税の導入、着地型旅行商品の造成･販売等の取組･方針を記載

① 行政からの支援、委託

東御市からの運営補助、公益事業に対する支援、広域連携事業や誘客ツールの作成、イベント事業や関係人口創出のシティープロモーションといった事業を受託している。

② 着地型旅行商品の販売

本市特有の農山村資源の価値を活かした地域ツーリズム造成や地域の観光資源を活用した東御市型グリーンツーリズムの充実による販売収入の拡大に取り組んでいる。当市のフィールドを使ったワインツーリズムやワインタクシーの販売。

③ 指定管理収入

湯の丸高原ビジターセンター、海野宿滞在型交流施設の公共施設の指定管理を受託している。

④ 施設管理収入

池の平駐車場運営管理収入（グリーンシーズン）、観光情報ステーション管理運営を受託している。当協会独自のオンラインショップの開設運営管理。広告販売収入。

⑤会費収入
情報の一元的な発信、誘客ツールの作成・配布、会員間の情報共有の推進といった会員サービスの充実により、会員数の拡大を図り、会員収入の増加に努めている。

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
（例）〇〇都道府県、××市町村は、△△法人を当該都道府県及び市町村における（広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ）として登録したいので△△法人とともに申請します。

長野県東御市では、東御市総合計画及び地方創生「まち・ひと・しごと総合戦略」に基づく観光ビジョンの目的を達成するため、一般社団法人信州とうみ観光協会（地域ＤＭＯ）ともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
（例）エリアが重複する●●ＤＭＯとは、月に一度の連絡会を行い、各取組の意見交換を行っている。
県境のイベント事業の連携
しなの鉄道沿線の DMO や観光協会とのインバウンド事業の連携
湯の丸高原つつじ祭りを嬬恋村観光協会と共催で行っている
【区域が重複する背景】

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
※重複する活動がないか、第三者から見た際に合理的と捉えられる役割分担になっているか等を踏まえて記入すること。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	早川　一夫
担当部署名（役職）	（一社）信州とうみ観光協会　事務局長
郵便番号	389-0516
所在地	長野県東御市田中 279 番地
電話番号（直通）	0268-62-7701
ＦＡＸ番号	0268-62-7702
Ｅ－ｍａｉｌ	info@tomikan.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	長野県東御市
担当者氏名	関　昌徳
担当部署名（役職）	産業経済部　商工観光課　観光係長
郵便番号	389-0592
所在地	長野県東御市県 281 番地 2
電話番号（直通）	0268-64-5895
ＦＡＸ番号	0268-64-5881
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.tomi.nagano.jp

都道府県･市町村名	長野県東御市
担当者氏名	河口　晋也
担当部署名（役職）	産業経済部　商工観光課　観光係
郵便番号	389-0592
所在地	長野県東御市県 281 番地 2
電話番号（直通）	0268-64-5895
ＦＡＸ番号	0268-64-5881
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.tomi.nagano.jp

（登録）【登録区分】地域DMO（一般社団法人信州とうみ観光協会）

様式２

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
　長野県東御市
【設立時期】　平成29年9月1日
【設立経緯】
③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】　北沢　達（会長）
【マーケティング責任者（CMO）】　早川　一夫
【財務責任者（CFO）】　田母神　禎子
【職員数】　６人（常勤5人（正職員２人、出向等3人）、非常勤１人）
【主な収入】
　収益事業　　12百万円、委託事業　26百万円（令和6年度決算）
【総支出】
　事業費　　40百万円、一般管理費　　21百万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】
市、商工会、飲食店組合、ワインぶどう協議会、工業振興会、地域振興公社、観光開発事業者、鉄道・バス事業者、地方銀行、とうみ湯の丸高原スポーツコミッション、各種住民協議会及び保存会　等

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	45.0（　）	45.0（　）	47.5（　）	48.5（　）	48.5（　）	50.0（　）
	実績	22.1（－　）	52.1（－　）	50.5（－　）	―	―	―
延べ宿泊者数（千人）	目標	56.0（　）	56.0（　）	58.0（　）	59.0（　）	59.0（　）	60.0（　）
	実績	25.8（－　）	49.8（－　）	59.3（－）	―	―	―
来訪者満足度（%）	目標	72.3（　）	72.3（　）	74.0（　）	74.0（　）	76..0（　）	76.0（　）
	実績	92.0（－）	91.8（－）	94.3（－　）	―	―	―
リピーター率（%）	目標	66.0（　）	66.0（　）	67.0（　）	70.0（　）	70.0（　）	70.0（　）
	実績	87.0（－　）	78.1（－　）	46.7（－）	―	―	―

戦略

【主なターゲット】
　自然、ワイナリー、ヴィンヤードに癒しを求める首都圏在住の個人旅行、体験旅行を好む短期滞在者（日帰り～1泊）
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
自然景観や自然とのふれあい、食の体験を目的として当市を訪れていることから、湯の丸高原、グリーンツーリズムなど当市の自然や農にふれあい、ワインを基軸とした体験型ツーリズムを構成
【観光地域づくりのコンセプト】
標高差1500mの〝テロワール〟の恵み 食彩の里

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・グリーンツーリズム事業
・ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム事業
・地域の稼げる看板商品造成

【受入環境整備】
・観光二次交通の運営
　とうみワインタクシーの運行
　レンタサイクル事業
・地域観光ガイド事業

【情報発信・プロモーション】
・HP、SNSによる一元的な情報発信
・メール発信による情報発信
・シティープロモーションパンフレット作成・配布

【その他】
・ワインと食の観光コンテンツ造成